



学校だより 1月号

横浜市立日下小学校 令和6年 1月9日

夢に向かって ともに歩み 未来を拓く 日下小

日下小学校 ホームページURL

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/hishita>

「2024年もよろしく願いいたします」

校長 渡邊 勉

新年明けましておめでとうございます。それぞれのご家庭でおだやかな新年を迎えられたことと存じます。

昨年は、保護者や地域の皆様方に何かとお世話になりました。子どもたちが安心して登下校し、学校生活を楽しみ、様々な学習活動に意欲をもって取り組むことができましたのも、皆様方がいつもあたたかく見守り、支えてくださったおかげです。誠にありがとうございました。今年一年が日下小学校の子どもたちにとって、そして、保護者・地域の皆様にとって幸多き年でありますようお祈りいたします。

さて、人はだれでも、今日より明日、昨年より今年と、これまでの自分よりよくなりたい、成長したいという意欲や向上心をもっているものといわれています。ましてや年が変わるとき、多くの人は今までの自分と違った、何か新しい力が体中からわき出てくるような気持ちになります。そして、やる気や向上心を実際の行動に移すよい機会といえます。子どもたちがこの機会をしっかりとつかみ、自分自身を上昇気流に乗せていくことができるよう、周囲の大人が〈適切〉に声かけをしていく必要があります。

この〈適切〉には、いろいろな要素が含まれていますが、子どもたちにとって分かりやすかったり、子どもたちの心に『響いたり・しみていったり』するかどうかにかかっていると思います。

学校のきまりやスタンダードには、「廊下や階段を歩くときには、右側を静かに歩きましょう」「決められた通学路を通して、登下校しましょう」等と記載されていたり、遠足や体験学習等のしおりには「公共のマナーやきまりを守る」「班で協力して活動する」等というめあてが書かれていたりします。学校で生活するときや校外に出かけたときに、そこにおける最低限のルールは何かを伝えるのには、このような「ストレートな表現の仕方」が参考になります。

一方、「アメリカの初代大統領ワシントンは、父から斧をもらったあと、父の大切な桜の木を傷つけてしまった」という有名な創作話が伝わっています。この話を小学生たちに丁寧に話したのち「今の話は、桜の木を切ってはいけないという話だよね。」と言うと、ほとんど全ての子どもは「違う！」と言います。そして「嘘をついてはいけない、正直が一番だということを伝える話だ」という反応をしてきます。

おそらく「嘘をついてはいけません」ということをストレートに何回も言うより、子どもの心に『響く・しみていく』効果があるのでしょうか。だからこそ、この逸話が広く知られることとなったのだと思います。

子どもたちを支援する立場の一人として、ただ言葉を伝えるのではなく、大切なことを子どもたちに分かりやすく伝えることを心がけていきたいものです。そして、子どもたちの心に響いたり、しみていったりするように伝えることができるよう心がけていきたいとも思っています。

今年も学校を支えてくださる皆様方への感謝の気持ちを忘れずに、職員一同力を合わせて、一人ひとりの子どもたちの健やかな成長を支えるために取り組んでまいります。

2024年も、どうぞよろしく願いいたします。